

問1 1840年代の歴史的事象をまとめた資料において、1840年のアヘン戦争開始に続き、1842年に江戸幕府がある法令を出したことが記されています。それまでの強硬な姿勢を改め、外国船に燃料や水を提供することとしたこの法令の名称を選びなさい。

(2016年 愛媛公立入試 類似)

1. 薪水給与令 2. 異国船打払令 3. 武家諸法度 4. 日米和親条約

問2 幕末に生糸が海外へ大量に輸出されたことは、当時の日本国内の産業にどのような影響を与えましたか。その背景を含めた説明として最も適切なものを選んでください。

(2014年 沖縄公立入試 類似)

1. 輸出が優先されたことで国内の生糸が不足し、価格が高騰したため、国内の絹織物業が圧迫された。
2. 海外から安価な生糸が大量に流入したため、国内の養蚕業が衰退し、米の生産への転換が進んだ。
3. 生糸の輸出で得た利益が絹織物業に還元されたため、最新の機械が導入されて生産効率が飛躍的に向上した。
4. 生糸に代わって茶の輸出が急増したため、絹織物業に代わって製茶業が国内最大の産業となった。

問3 幕末の動乱期に起こった次の4つの出来事について、最も古いものから年代順に正しく並んでいるものはどれですか。

(2017年 鹿児島公立入試 類似)

1. 安政の大獄、桜田門外の変、薩英戦争、大政奉還 2. 桜田門外の変、安政の大獄、大政奉還、薩英戦争 3. 安政の大獄、大政奉還、桜田門外の変、薩英戦争 4. 大政奉還、薩英戦争、桜田門外の変、安政の大獄

問4 近代以降の日米関係を記した年表において、1858年の出来事として「井伊直弼が日米修好通商条約を結ぶ」という記述がある。この時の状況について述べた文として正しいものはどれか。

(2021年 熊本県公立入試 類似)

1. 大老が朝廷の許可を得ないまま調印したことが、幕府への批判を強める要因となった。
2. 老中の水野忠邦が、アメリカからの要求を拒否するために結んだ同盟である。
3. 勝海舟が全権大使としてワシントンへ渡り、アメリカ大統領と直接調印した。
4. 朝廷から正式に条約締結の命令が下されたため、国内の混乱は最小限に抑えられた。

問5 1858年に日米修好通商条約が締結された後、幕府の政策に強く反対した尊王攘夷派の武士や公家に対し、大老の井伊直弼が行った大規模な処罰を何といいますか。

(2021年 千葉県公立入試 類似)

1. 安政の大獄 2. 蛭社の獄 3. 桜田門外の変 4. 天保の改革

問6 江戸幕府が1825年に出した「異国船打払令」と、1842年に出した「薪水給与令」の内容の違いを説明した文として、正しいものはどれですか。

(2019年 和歌山公立入試 類似)

1. 異国船打払令が近づくと外国船を無差別に攻撃する方針だったのに対し、薪水給与令は燃料や食料を与えて退去させる方針である
2. 異国船打払令がキリスト教の布教を禁止する方針だったのに対し、薪水給与令はキリスト教徒に限定して入国を認める方針である
3. 異国船打払令がオランダ以外の船を拒絶する方針だったのに対し、薪水給与令はアメリカとの通商を全面的に認める方針である
4. 異国船打払令が日本の全港を閉鎖する方針だったのに対し、薪水給与令は長崎と横浜の2港に限り開港する方針である

問7 江戸幕府の第15代将軍である徳川慶喜が「大政奉還」を行った背景や目的の説明として、最も適切なものはどれですか。

(2023年 福井公立入試 類似)

1. 武力による倒幕を目指す勢力の口実をなくし、天皇を中心とした新しい政治体制の中で徳川家が実権を維持しようとした。
2. 全国の藩主に対して土地と人民を天皇に返還させ、天皇が全国を直接統治する仕組みを整えるために行った。
3. 欧米列強との不平等条約を改正するために、幕府の権限をすべて天皇に譲渡して責任を回避しようとした。
4. 関白や摂政といった古い役職を廃止し、総裁・議定・参与の三職を置く新たな政府を樹立することを目的とした。

問8 幕末の開国にともなって外国との貿易が始まると、日本の国内経済には大きな変化が生じました。この時期、人々の生活が苦しくなった主な原因として正しい説明はどれですか。

(2024年 埼玉県公立入試 類似)

1. 生糸や茶などの生活関連品が大量に輸出されたことで国内が品不足となり、物価が急激に上昇したため。
2. 外国から安価な製品が大量に流入したことで国内の産業が衰退し、深刻な物価の下落が発生して失業者が増えたため。
3. 幕府が貿易を完全に独占して国内流通を制限したため、商品の流通がストップし、全国的な飢饉が発生したため。
4. 外国貨幣が大量に持ち込まれたことで日本の貨幣価値が極端に高まり、庶民が国内の物資を購入できなくなったため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 薪水給与令	江戸幕府は、隣国の清がアヘン戦争で敗れたことを受け、それまでの「異国船打払令」を継続することは日本に危険を及ぼすと判断しました。そこで1842年に、来航した船に対して薪（燃料）や水、食料を供給して速やかに退去させる「薪水給与令」を発令しました。これは幕末の開国へと向かう過渡期の重要な政策転換の一つです。
問2	答え 1 輸出が優先されたことで国内の生糸が不足し、価格が高騰したため、国内の絹織物業が圧迫された。	海外での需要が高まり、生糸が大量に輸出された結果、日本国内の市場に出回る生糸が不足しました。これにより生糸の価格が跳ね上がり、原材料を確保できなくなった国内の絹織物業者が苦境に立たされるといった経済的な混乱が生じました。
問3	答え 1 安政の大獄、桜田門外の変、薩英戦争、大政奉還	1858年から始まった安政の大獄が起点となり、その弾圧に対する報復として1860年に桜田門外の変が起きました。さらに1863年の薩英戦争によって薩摩藩が倒幕へと傾く大きな転換点を迎え、最終的に1867年、15代将軍徳川慶喜が政権を朝廷に返す大政奉還が行われました。歴史の因果関係をたどると、幕府による強権政治、その破綻、地方雄藩の台頭、そして幕府の終焉という流れになっています。
問4	答え 1 大老が朝廷の許可を得ないまま調印したことが、幕府への批判を強める要因となった。	日米修好通商条約の調印は、当時の最高責任者である大老・井伊直弼の判断で行われましたが、天皇の許可（勅許）を得ていなかったことが最大の問題となりました。この独断専行は、反対派を弾圧した「安政の大獄」とあわせて、幕府の権威を失墜させる一因となりました。水野忠邦はそれ以前の時代の人物であり、勝海舟はこの条約の批准書を交換するために咸臨丸で渡米しましたが、調印そのものを行った大老ではありません。
問5	答え 1 安政の大獄	大老の井伊直弼が、将軍の世継ぎ問題や、天皇の許しを得ないまま条約を締結したことに反対する勢力を弾圧した事件です。この処罰によって吉田松陰や橋本左内といった多くの志士たちが処刑されました。
問6	答え 1 異国船打払令が近づく外国船を無差別に攻撃する方針だったのに対し、薪水給与令は燃料や食料を与えて退去させる方針である	異国船打払令（無二念打払令）は、日本の沿岸に近づく外国船を見つけ次第、大砲で攻撃して追い払うという非常に強硬な政策でした。しかし、隣国の清がイギリスとの戦争に敗れたことを受け、幕府は不必要な武力衝突を避けるために方針を緩め、漂流した船に薪や水、食料などを提供して帰ってもらう薪水給与令へと切り替えました。
問7	答え 1 武力による倒幕を目指す勢力の口実をなくし、天皇を中心とした新しい政治体制の中で徳川家が実権を維持しようとした。	当時の徳川慶喜は、倒幕派による武力行使を避けるため、形式的に政権を朝廷へ返上しました。その狙いは、天皇のもとに諸藩の代表が集まる議会形式の政治体制を作り、その中で最大の勢力である徳川家が政治の主導権を握り続けることにありました。なお、土地と人民を返上させるのは「版籍奉還」、三職の設置は「王政復古の大号令」に関する記述であり、大政奉還とは時期や内容が異なります。
問8	答え 1 生糸や茶などの生活関連品が大量に輸出されたことで国内が品不足となり、物価が急激に上昇したため。	開国後の貿易では、生糸や茶などが主要な輸出品となりましたが、これらが大量に海外へ流出したことで国内向けの物資が不足しました。また、金と銀の交換比率が内外で異なっていたことから大量の金が国外へ流出し、それに対応するために幕府が質の劣る貨幣を発行したことも、さらなる物価の上昇（インフレーション）を招く要因となりました。このように物資の不足と貨幣制度の混乱が重なったことで、庶民の生活は非常に苦しくなりました。